



～脱炭素社会を先導する世界に誇れる環境都心をめざします～
「港区低炭素まちづくり計画」を策定しました！

令和3年7月15日
区長記者発表

社会状況の変化に対応する新計画

区は、令和3年度からの6年間を計画期間とする新たな港区環境基本計画において「2050年までに区内の温室効果ガスの排出実質ゼロ」となるゼロカーボンシティの実現に向けて取り組むことを表明。

まちづくりの積極的な環境負荷低減に取り組むため、平成27年に策定した「港区低炭素まちづくり計画」を見直し！

基本となる3分野の取組のさらなる発展

エネルギー分野

先進技術の導入による、活発な経済活動と環境配慮の両立

交通分野

公共交通網を生かした環境負荷の少ない交通環境

みどり分野

豊かな緑が繋がる都心部の形成

SDGsや社会課題解決への「新たな視点」導入

SDGs



新たな視点

- ・レジリエント※なまちづくりの推進
- ・テクノロジーの活用
- ・ライフスタイルの多様化への対応

※レジリエント…災害や事故などにより致命的な被害を負わない強さと、速やかに回復するしなやかさをもつこと

新たな「港区低炭素まちづくり計画」

港区低炭素まちづくり計画の概要

めざすべきまちの将来像

快適で 安心な うるおいある 持続可能な 環境都心 みなと

【方針1】 エネルギーが最適利用され、自立性の高いまちづくり

↳ 建築物の省エネ化、エネルギー利用効率の向上、未利用・再生可能エネルギーの活用

【方針2】 都市と自然が共生するまちづくり

↳ 二酸化炭素の吸収源となる緑の創出、ヒートアイランド現象等緩和に資する自然の活用

【方針3】 多様な交通手段が利用しやすく、環境負荷の少ない交通まちづくり

↳ 自動車交通の円滑化、公共交通を補完する移動環境の整備

具体的な取組【方針1について】

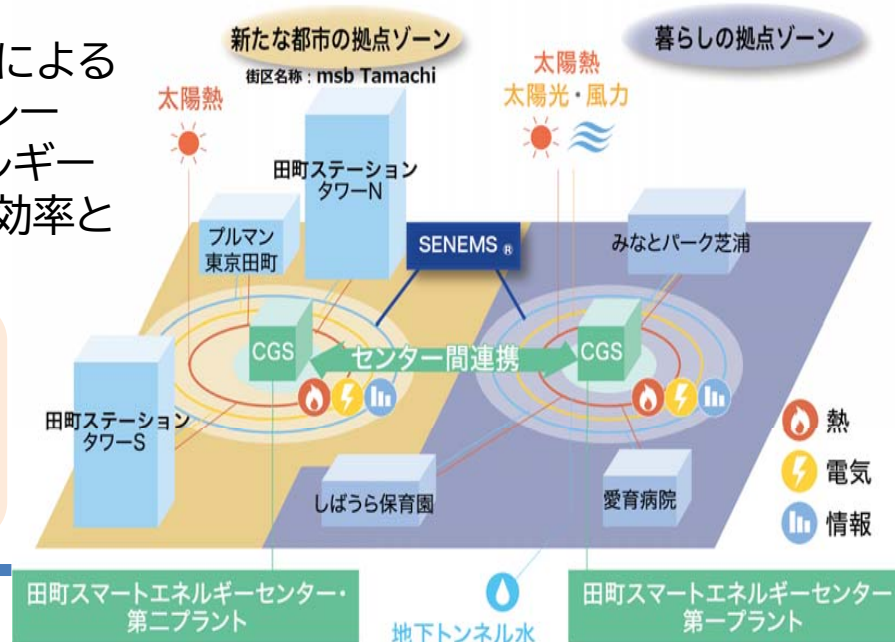
【方針1】エネルギーが最適利用され、自立性の高いまちづくり

取組例1

区内で活発に行われている再開発による都市機能の更新などを契機として、コージェネレーションシステムなどを導入。複数の街区でエネルギー供給施設を共有することで、エネルギーの利用効率と自立性をアップ！

コージェネレーションシステムとは？

熱源から電力と熱を生産し供給するシステムの総称。1つの熱源から2つのエネルギーを生産できるため、省エネ効果が高い。



取組例2

二酸化炭素排出量の多い事業者に対し、エネルギー使用量やCO2排出量の実績、自主的な削減目標、削減対策の取組に関する報告書の提出を義務付け、その内容を評価したうえ、技術的支援を行うことで、事業者の環境配慮に対する意識の向上を図る。

田町駅東口北地区の街区をまたいだエネルギー利用等の取組

具体的な取組【方針2について】

【方針2】 都市と自然が共生するまちづくり

取組例1

再開発などの大規模開発の機会をとらえた緑化について、緑道の整備や街区再編による公園の整備など、緑とにぎわいあふれる歩行空間の整備を推進！

敷地内の緑化
面積は
6,388㎡！



事例：赤坂一丁目地区市街地再開発事業で整備された大規模な緑化空間→

取組例2

公共空間だけでなく、区民や事業者などとも連携し、近年の先進的な緑化技術を踏まえた屋上緑化や壁面緑化を誘導！



壁面緑化

・区の緑被率：21.8%
⇒23区中第4位！
(H28年度港区みどりの実態調査(第9次))

・緑豊かな都市計画公園の
拡張、新設により緑被率を
向上

具体的な取組【方針3について】

【方針3】多様な交通手段が利用しやすく、環境負荷の少ない交通まちづくり

取組例

駐車施設集約化を推進するため、「六本木交差点周辺地区」と「浜松町駅周辺地区」を追加



- 車両出入口による歩道分断箇所の減少による安全・快適な歩行環境の創出
- 連続する街並みの形成と土地の有効活用
- 都市内の非効率な自動車の移動をなくし、CO2排出量を削減



新たな計画に基づき、脱炭素社会を先導する世界に誇れるまちをめざします！